



伸びよう阿曽っ子



9月品格目標：やりぬく心

2学期が始まりました

暑さが厳しい中、子どもたちは汗びっしょりになりながら登校してきてくれました。そして校門で大きな声で挨拶をしてくれました。本日の始業式で次のようなお話をしました。

阿曽っ子のみなさんおはようございます。元気な挨拶ですね。

さて皆さんは覚えていますか？1学期の終業式の日、校長先生からみなさんにがんばってほしいことを3つ言いましたね。

- 1つ目は「夏休みはたっぷり楽しむこと」
 - 2つ目は「夏休みはお手伝いをたくさんすること」
 - 3つ目「夏休みに、勉強をがんばること」
- それぞれ守れたでしょうか。



さて、校長先生がこの夏休みに心に残っていることみなさんに紹介します。それは、この人のことについてです。夏の甲子園でベスト4に入った「県立岐阜商業高校」で活躍した横山温大（はると）選手です。

温大さんには生まれつき「左手の指」がありません。生まれてきたときに両親は「野球をするのは難しいのではないか」と思ったぐらいでしたが、「**できないことを教えるのではなく、できる方法を探そう**」と気持ちを切り替えたそうです。

小学校3年生の時には、地元の少年野球に入団し、誰よりもボールを打つ練習をがんばったそうです。はじめはキャッチボールも難しかったそうですが、お兄ちゃんやお父さんとの練習を重ねました。お母さんは野菜嫌いの温大さんのために野菜を細かく刻んで煮込んだカレーをつくるなど体作りを支えてくれたそうです。

中学校では、ピッチャーや外野手として活躍をしていました。ピッチャーの時には左手にグラブをくくり付けてプレーし、守備の時には右手グラブをしてボールをとり、ボールを投げるときにはグラブを外し右手でボールを投げることができるようになっていたそうです。それができるようになるまで、放課後やお休みの日に何百回も繰り返し練習を重ねたそうです。

そんなすごいことができるようになったものの高校では「ベンチに入ることも難しい」と言われていました。お母さんは温大さんに「そんな体に生んでしまっておめんね。左手があったらすぐにレギュラーになれたのに。」と言っていたそうです。温大さんは「両親に悲しい気持ちにさせたくない」と心に誓いました。左手の指がない温大選手にとっては右手がとても大切なので、けがを防ぐためにストレッチや筋トレをし、鋭くバットを振ったり遠くまで速いボールを投げたりするための腕力を徹底的に鍛えました。

めきめきと力をつけ、試合で活躍し、ついに背番号9をつかみとりました。温大選手のプレーはチームの大きな戦力となり、県立岐阜商業高校がベスト4へとつながったのです。温大選手は「**障がいがあっても関係なくやれる**」ことを証明し、**同じような境遇の人々に勇気を与え、『こういう体でもできるんだぞ』『諦めなければ夢は叶う』というメッセージを届けたい**という思いを胸に甲子園でプレーしたそうです。

障がいを抱えて生まれてきたことを受け止め、家族や仲間の支えの中で工夫と努力を重ね、道を切り開いてきた温大選手。その姿は、「**できないことより、できることに目を向け工夫や努力をすることの大切さ**」を多くの人に教えてくれました。

さあ、まだまだ暑い日が続きますが2学期も元気に頑張りましょう。
これで校長先生にお話を終わります。



帽子について

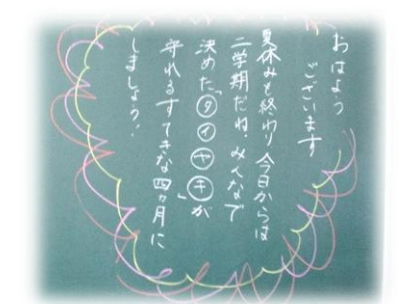
1学期の学級懇談会やPTA理事会で登下校時に着用する帽子についてご意見をいただきありがとうございました。このことにつきましては、児童の安心安全や本校の制服変更に関することであるととらえ、学校の課題についてともに解決を図る機関である学校運営協議会（10月開催）で協議の上、決定させていただきます。

ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

学級での学習がスタート



学習活動がスタートしました。たくさんの配り物をもったり、漢字テストの賞状をもったり、係活動に取り組んだり、夏休みの思い出話をしたりと子どもたちが生き生きと過ごしました。静かでうす暗かった夏休みの教室に、再び子どもたちの明るい笑顔が戻ってきました。



熟議の会を開きました

8月19日(火)阿曾分館にて、地域・保護者・学校運営協議会委員・教職員と阿曾小の児童に関わってくださっている方々が、合計45名ご参加いただきました。拡大熟議の目的は、「阿曾っ子が、コミュニティ・スクールの共育目標の1つである「ふるさと愛」を育むために家庭、地域、学校がそれぞれできることは何か話し合い(熟議)を行うことで、地域とともに魅力ある学校づくりを目指す」です。岡山県教育庁生涯学習課の 安田 隆人アドバイザーが、ファシリテーターとなって、「子どもたちの『ふるさと愛』を育むために」をテーマに話し合いました。学校や地域・家庭で取り組んでいることについて、既存の取組を見つめ直したり、新たな取組を考えたりしました。

詳細についてはすぐる配信、阿曾小ホームページをご覧ください。

